

生徒感想

板野中学校 2 年 g

僕は、今年初めてこの会に参加しました。初めてということで、実際に会場に行ってみる前は、緊張や不安でいっぱいでした。「何を話すのか」「どんな人たちがいるのか」「何人くらい来るのか」「雰囲気はどんなのだろうか」など、いろいろ疑問に思いながら始まった第1回目の交流会。僕は何をするのか予想もできなくて、更に不安でした。しかし、本題の前のレクリエーションの時間で緊張も不安も全て飛びました。会全体の雰囲気もよく、「5時間…」地獄の時間になるんだろうなと思っていましたが、あっという間に終わってしまいました。

第2回、第3回で「キャッチフレーズ」と「ポスター」を決めたのですが、8割くらい子どもだけで決めて、少し大人になった気分でした。僕は司会みたいなことをやったのですが、僕が焦って変なことを言ってしまうと、周りの子が「大丈夫だよ。焦らんで」と言ってくれたり、優しい目で見てくれて、とてもやりやすかったです。

「ポスター」の部では、僕(と友達2人)の絵が選ばれて、嬉しかったです。そこから本格的に話し合いが始まり、発表する機会があったのですが、僕はあまり発表する勇気がなく、雰囲気を明るくはできなかったけど、周りの子たちが頑張って意見を言ってくれて、よい考えがたくさん生まれました。

話は飛びますが、本大会ではとても良い時間を過ごせました。はなちゃんが来れなかったのは残念だったけど、シンジさんだけでも来てもらえてよかったです。5人の人たちの作文を聞いて、途中で涙を流す人、言葉につまる人など、上辺だけの作文ではなく、その人の思い、本心、本音が込められた作文を聞いて、見て、心を打たれました。特に途中で涙を流した人の作は、けっこう親近感のある内容で、その子の気持ち

の100%は理解できないと思うけど、60%くらいは感じられたと思います。ちょっと気を抜くともらい泣きしそうなくらいでした。

意見発表の部では、さすがの僕でも緊張しました。はじめは、頭真っ白で声をガクガク震わせながら発表していましたが、何度か発表していくうちに、手を挙げさえすれば不安や緊張がなくなるくらい気軽に発表できるようになりました。意見発表の中でも言ったのですが、本大会の雰囲気はとてもよく、発表しやすく、みんなが優しい暖かい目をまっすぐに向けて、頷きながら意見を聞いてくれるので、とても発表しやすかったです。発表したくなる雰囲気でした。一度発表したら、その次からは気楽に発表できるような、そんな感じでした。最後の片付けの時も、サボっている人はおらず、「何をしよう」とオロオロしている人はいましたが、その人以外はキビキビと動いて、最後の最後まで良い雰囲気だなと思いました。また、来年も参加したいと思えました。(それとお弁当美味しかったです！)

板野中学校 2 年 f

私は、人権を語り合う中学生交流集会に参加して、初めての経験でしたが、記憶に残るいい思い出になりました。シンジさんの話で、板野町には部落地域があることを初めて知りました。いつか私も部落差別に合うことも0ではないんだろうと思いました。そんな不安を感じながらも、シンジさんの話、そしてたくさんの子が意見を発表していたので、強くなれた気がしました。みんな本気なんだと、本気と伝えられていなくてもそう感じたからです。

私は、みんなの前で発表すること、他人と関わって話すのが苦手です。置いて行かれるだろうと不安に思っていました。でも、そんな思いがみんなにとって失礼になるほど、そんなことはありませんでした。キャッチフレーズの通り、優しい世界をみんなは描いていました。

私が今回の交流集会で学んだことは、人権の

ことについてもそうですが、変えようのない生まれた場所、それが部落でもそうでないとしても、責める、差別するのは違う。そして、気付いたことは、見えない不安を気にするより、今の現状を大切に、後は何とかする精神が私にとっていいものなんだろうと人権学習を通して気付くことができました。また、来年も参加したいです。

板野中学校 2年 h

私は最初、交流集会に行くのが怖かったです。意見をみんなの前で言うのが苦手だし、他校の子も来ると聞いていたからです。でも、他校の子はみんなすごく優しくかったです。それに、アイスブレイキングがあることで、みんなとかかわることができ、好きなこと、趣味などが知れて親しくなることができました。意見などを言うのが苦手でも、少人数でだと言えるので、グループで集まるのがすごくありがたかったです。

交流会の中で一番印象的だった意見は、「いじめられる人よりも、いじめる人の方が精神的なケアが必要」という意見です。ヨーロッパなどではいじめる人は悪くないという考え方があると聞いたことがあったので、この意見に賛成だと思いました。それに、いじめる人が 100 % 悪い、いじめられる人は全然悪くないというのは小学校の先生が言っているのを聞いていて、それは違うのではないかと違和感をもっていたからです。このように、私が長年、心の中で思っていたことが、みんなの意見を聞いてすっきりすることもありました。

この交流会に行き、学校では学べないことがたくさん学べました。来年も参加し、もっと意見を言えるようにしたいと思いました。

板野中学校 3年 a a

今日は人権を語り合う中学生交流集会でした。今回、私は午後から作文を読むことになっていました。朝からずっと緊張していたけれど、

午前の部の発表や講演、みんなの雰囲気を見て、感じて、「ここならみんな分かってくれそう」と思って、意見発表することができました。今まで、大勢の前では言っていなかった耳のことを話すのは抵抗があって、作文を読むかとても迷ったけど、読まないと後悔する、自分が成長できるかもしれないと思い、発表することができました。意見発表が終わった後は、たくさんの人が意見をつないでくれました。こんな経験は初めてでとても嬉しかったです。一年前の自分には絶対できないと思います。だから発表する決意をもてたことが自分の成長なのかなとも思いました。本当に発表してよかったです。今でも発表できたことが不思議です。今、もし発表しようか悩んでいる人がいたら、「発表して損はしないよ」って言いたいです。

板野中学校 3年 d

私は人権集会で様々なことを学びました。その中でも心に残ったのは、OBの方の部落差別についての話です。聞いたことがある言葉ではあったけど、あまり私は詳しくありませんでした。OBの方はいろいろなことを話してくれました。人に打ち明けるのが怖かったこと、家族に言うべきか悩んだこと、娘さんに自分のことを話したこと。自分から打ち明けるのって、すごく勇気がいることだし、行動に出せるのがすごいなと思いました。その話を聞いての感想で、「自分で差別の線を作っている」という話題になり、確かに、と思いました。差別する側はもちろん、差別される側の人も少なからず線を引いてしまっているんじゃないかなと思いました。お互いにその線をはがして、相手を知ることによって部落差別や他の差別もなくなっていくんじゃないかなと思います。

最近、いろんな差別や人権学習をしてきて気付いたことは、差別について正しい知識を教えていく人と、それを理解して知ろうとする人がたくさん必要だと思いました。差別が繰り返される理由の1つに、本当のことを知らないから

というのはすごく大きいし、知る機会が少ないからなのかもしれないと思います。これからたくさん場所でたくさんの人に人権について、差別について、知ってもらえる機会が増えたらなと思います。すごくいいお話ばかりで、貴重な1日でした。

板野中学校3年 i

私は今回初めて参加しました。正直、最初は乗り気ではありませんでした。なぜ、休日なのに制服を着て人権学習をしなければいけないのか。そう思っていました。ですが、実際に行ってみると、考えは変わりました。各学校での人権学習で学んだこと。その日のテーマについてそれぞれが思うこと、人によって考え方は違いました。

本番では、同じ学校の友人が自分のことについて作文を発表しました。その作文を聞いたとき、私は自分の知らない間に差別の心をもってしまっていたのだと気づきました。確かに、メガネをかけている人には何も思わないし、接し方も変わらない。でも、補聴器を付けている人がいれば接し方を変えてしまうかもしれないと思いました。あの1つの作文で、私の考え方は、180度変わりました。今回、人権集会に参加して、自分の考えを変えることができてよかったです。また機会があれば是非参加したいです。

板野中学校3年 t

今日私はこの集会に来てよかったと思います。初めは先生に連れられて来ただけだったけど、参加していくうちに自分から来たいと思うようになりました。もともと私は人権のことを考えることまではしていたけど、その後の意見交換をするのが苦手でした。しかし、この人権集会は参加している人、一人一人が手を挙げやすい雰囲気を作っていて、意見が言いやすかったし、他の人の意見を聞いて、自分の考えをより一層深めることができました。それに、この集会にはたくさんの人が来ており、いろいろ

な方向から、いろいろな問題について考えることができたので、そこからまた違う考えが生まれたり、深めたりすることができました。今回は中学生として出ましたが、これから生きている間、考え続ける人権問題の集まりには、いくつになっても参加していこうと強く思いました。

大麻中学校1年 a f

午後の部Ⅰの二つ目の作文を聞いて思ったことです。私にも仲の良い友達がいました。その子は小学校高学年の時に学校に来なくなってしまいました。でも私は何もすることができませんでした。だから行動を起こし続けたaさんは本当にすごいと思いました。作文の中に後悔しても、もう遅いという文がありました。その言葉は私にとって大切にしたいと思いました。今を一番大切にできるように、一生懸命に今を生きていきたいです。

最後にでた「自分にとっての幸せ」について自分の中で考えてみました。私にとっての幸せは、今という時間を全力で楽しめることです。明日何が起ころうとも後悔がないという状態で居られるのは本当に幸せなことだと感じます。私は毎日幸せでいられるようにしたいと思いました。時間が戻ってくることはないので、明日の私が昨日は良い日だったと言えるようにしていきたいです。

大麻中学校2年 a g

私はこの交流会が今年が初めてで、参加した数も少なく、他の学校の生徒のことを知ることがあまりできませんでした。しかし、大会で話をしてくださったシンジさん、吉成さん、作文を発表してくださった生徒の皆さん、この会に参加されている方々全員が真剣に人権について考えられていました。その空気は緊張感がありますが、でも、どこか心が温かいような感じでした。誰かを傷つけることなく、ちょっとした意見でも他の人が拾ってくれる、楽しく気分の

良い空間でした。また、人権についての考えが広がるのが楽しく気分が良かったです。私もこのような空気や思いを作れる生徒になり、私の学校でも実現させたいと思いました。

大会では、意見が言えませんでしたでしたが、これからの学校の授業では今回言えなかった分を言っていきたいと思いました。

大麻中学校3年 u

「人権を語り合う中学生交流集会」に参加して本当に貴重な体験をすることができたと思いました。最初は自分から手を挙げることを戸惑ってばかりで意見を言うことができませんでした。緊張して、他校の生徒ともなかなかなじみませんでした。しかし、実行委員会に参加するごとに少しずつ慣れ、交流もできるようになりました。

本大会では、「幸せとは何ですか」と聞かれ、自分なりに考えてみました。僕自身の幸せは、この世界に生まれてきたことだと思いました。この世界には優しい人、リーダーシップのある人など様々な人がいます。そんな人々と交流できるこの世界が大好きです。僕にとってはこれが幸せだと思いました。人権委員会に入り、こういう交流の機会があって本当に良かったです。

大麻中学校2年 j

「人権を語り合う中学生交流集会」の中で参加団体の紹介があり、私は大麻中学校の紹介をすることになりとても緊張しました。間違えないうようにずっとメモ用紙を見て発表してしまったので、ほとんど前を見ることができませんでした。

午前中の全体会では緊張して発表できませんでしたが、午後からの会の中で一度だけ発表することができました。みんなの発表を聞いて特に心に残ったのは「差別は『線』じゃなくて『壁』になる」という発表です。私も生きていく中で線を引くことは必要な時があるかもしれないと

思っています。でも、差別をして相手との間に壁をつくることは間違いだと気づかされました。

この会に参加して、人権に対しての意見を聞くことができたのはもちろん、他校の人たちと交流することもできました。いろんな人たちの考えを聞いて、自分の意見を持ち、これからも人権について自分が何をすべきなのかを真剣に考えていきたいと思いました。

瀬戸中学校3年

今日は「人権を語り合う中学生交流集会＋‘22」に参加できてとても嬉しく思いました。パネリストのシンジさん、コーディネーターの吉成先生の話聞いて差別社会の生きづらさを感じました。娘にも正直に生きていってほしいという強い思いに心を動かされました。それと同時に差別が現実に残っている現状と人権教育の大切さを改めて感じました。

また、午後の部では、他校の人の意見作文を聞き、みなさんと一緒に人権について語り合えていい経験になりました。これからも差別やいじめのない社会の実現をめざし、自らの発言と行動で貢献していきます。

瀬戸中学校3年

2回目の人権集会に参加できて、楽しかったし、とても参考になりました。最初の自己紹介や表彰などはとても緊張したけれど、話を聞いたりみんなの考えを聞いたりすると、「なるほど」と思ったし、一人ひとり色々な課題をもっていることを知り、人権問題への関心が深まりました。

シンジさんや吉成先生から、実際に差別を受けた経験を聞くと、やっぱり差別はなくなければならないと改めて思いました。語ってくださるとき自然に流れる涙を見て、どんなに辛かったか、くやしい思いがあるのかが伝わってきました。

午後の部の作文発表も心に残りました。身近

にある問題や発表者の体験を聞いて、自分だけでは解決できない問題でもみんなが語り合って解決しようと全力で取り組んでいることがとてもよかったです。自分も途中で勇気を振り絞って言いたいことが伝えられたのでとても満足しています。これからも人権集会で学んだことを生活に生かしていきたいと思います。

八万中学校3年 a

まず、今年もこの会に参加することができて本当に良かったと思います。特に私は3年生ということもあり、中学生として参加できる最後の本大会にとっても緊張していたのですが、有意義な時間を仲間たちと過ごすことができました。シンジさんのお話を伺える機会がもらえて、とても嬉しかったです。

今日、私は自分の経験について、初めて大勢の前で発表することができました。中学3年間抱えていた思いを、会場の仲間たちはしっかりと受けとめてくれました。こんな風に、自分のことを語り合い、受けとめ合える機会は、なかなかないと思います。学校とはまったく違う雰囲気です。とても貴重な体験でした。学年に関係なく、他校の子とも話すことができるのもこの会の魅力であり、私はそれがとても嬉しかったです。

そして、会の中で、「今、幸せか」という問いかけがありましたが、私は多分…今、幸せだと思います!!!発表したときに、イケメンのT先生のことを話したのですが、T先生を含めて、友達や親、そして交流集会で出会った仲間達のみんなと出会えて、関わることが本当に幸せだと思います。この感想文を読んでいる人とも関わって、良かったと思います。ありがとうー!!!高校生になっても、参加したいと思います!!

八万中学校3年 I

私は今回の人権集会に参加できて良かったと思います。理由は3つあります。

1つめは、人権作文です。私は自分の作文を発表したことも、他人の発表を聞くことも少なかったもので、まったく何も知らない状態での挑戦でした。でも、自分のやりたいように伝えたいことを発表できた気がして、さらに伝えることの楽しさを実感した気がします。

2つめの理由は、シンジさんの話を聞いて、他人の考えを取り入れることの大切さを感じたからです。シンジさんの体験談を聞くと、他人を思いやることの大切さや、理解し合うことの大切さを話しているように見えて、それがシンジさんが本当に伝えたかったことだとは思えないけど、私はそう感じました。

3つめは、お母さんが来てくれて、帰った後、いろいろな話をしてくれたからです。あまり会とは関係ないのかもしれないけど、私は親とあんまり心の中から話したことがなくて、少し悩んでたんです。そんなときに、会を通して話することができたので、うれしかったです。差別の話や、作文の話をしているなかで、母さんが「親として誇らしいよ」と言ってくれて、今まで活動してきて、作文頑張って書いて、本当に良かったなと思えました。

この会は、私にとって本当に最高の経験になったと思います。これからも頑張りたいです。

松茂中学校1年 s

私は、この中学生集会に参加して、とてもよかったです。こんなにもいい空間にいたのは初めてです。こんなにもいいなら、作文発表すればよかったと、とても後悔しています。

それぞれの熱意、気持ちは一緒でも、内は違う。いわば十人十色なこの世の中で、自由な発言はやっぱり大切だと思いました。こんなにも素晴らしい空間ができたのは、様々な人の支えがあったからだと思います。温かい支えがなければ、このような空間をつくることはできないと思うし、そもそも人は支えがなければ生きることができないので、人権とは「The,支え」なのかもしれません。

そして私は、「輝かしい未来」ってなんだろうと考えました。私にとって「輝かしい未来」は、特定の人だけじゃなくて、世界中の人、知っている人も、知らない人も、全員が笑顔で幸せに暮らすことです。

笑顔は、幸せの象徴です。人は誰かの笑顔を見ることで自然に笑顔になれる。でも現実には甘くありません。今も恐怖で支配されている人がいます。全員が笑顔になるためには、一人一人の覚悟と信頼、そして支えが必要だと思います。この中学生集会で、よりそう感じました。参加できたこと、本当に大きな喜びです。

松茂中学校 1 年 a c

僕は、今回参加した人権集会で、自身と相手との意見を全く違うものであると思うのではなく、同じ人権を大切にしたいという共通点や違う点を見つけながら、互いの意見を補い合うのが大切だと思いました。実際、今回の人権集会では、他者の意見を引き継ぎ、補い合い、「あ、そういう考え方もあるのか」と思いました。自分の考えを全て吐き出せる場は、あまりないと思うので、もっと人権を大切に、もっと「人権集会」という素晴らしい場を増やしたいです。

松茂中学校 1 年 a h

この大会に出たのは初めてで、徳島県外からも人がすごく来ていて、すごく緊張しました。ですが、みんなの感想や思ったことを聞いているうちに、緊張がほぐれていったような気がしました。なぜなら、みんなが自分の思ったことを正直に言っていたからです。これは僕も本当にすごいと思います。なにより僕だったら、知らない人の前で発表はたぶん無理だと思います。なので、次にまた人権を語り合う中学生交流集会有ったなら、積極的に参加し、自分の思いを発表したいです。

僕のこれからの目標は、他校の先生方、先輩たち、僕の学校の先輩や同級生と同じように堂々と発表することです。

松茂中学校 1 年 a i

私は、今回の作文発表で印象に残っている場面が2つあります。1つめは、八万中学校のaさんの人権作文です。発表内容は、とてもよく心に残りました。でも、私はそれを聞いてのみんなの感想に驚きました。たくさんの先生方、大人、生徒がいる中で、堂々と語っていて、次に次に連なって発表できていたところがすごいと感じました。だからこそ、私も、今日出会った皆さんのように、人前で堂々と発表できる勇気を持ちたいです。

2つめは、八万中3年の男の子と松茂中1年の男の子が、この集会で出会い、友達になったことで、刺激を与え合い、それぞれが精一杯の人権作文を書き、同じ舞台上で発表できたことに、互いへの尊敬と信頼の言葉を語っていたことです。松茂中学校で、私たちはエンパワーメントの重要性を学んでいます。まさにこの2人の姿が、最高のエンパワーメントになっていると思いました。私たちは出会った人たちとの信頼と尊敬の中で、人間として大きく成長していくんだと思います。私は、この中学生集会でとても大切なことを学ぶことができました。

松茂中学校 1 年 a b

自分は「線で差別を考える」という言葉に、「なるほどなあ」と思いました。それで話はドッと盛り上がり、手が次々と挙がり、「すごく『線』という言葉は、みんなの心に『グサーッ』ときたんじゃないかなあ」と思います。みんな必死に準備したり、発表したり、頑張ったんじゃないんでしょうか。そのことは自分に伝わって「頑張ったなあ」と思いました。

例えば、八万中学校の1君、彼は会場準備でも「何かできることはないか」と積極的に取り組み、発表でも積極的に手を挙げるし、「すごいなあ」と思いました。自分は、この会に参加してよかったです。本当にありがとうございました。

松茂中学校 1 年 a j

今日、「三重県の四日市から参加しました」という先生がいました。私が真っ先に思いついたのは、四大公害病、四日市ぜんそくのことです。私は勝手に「四日市」に対して、偏見をもっていました。当時、四日市ぜんそくが流行した時、きっとたくさんの人が四日市を避けたりしたと思います。そして、完全に収束した今でもすぐ、私はそんなことを思いました。私は、そんな自分を恥ずかしく思ったと同時に、何世代か後の人からしたら、コロナウィルスも、そういう存在になるのかと思いました。そこでも、やはり差別する心やその事柄について悪い面ばかり学び、勝手に決めつける人も出てくる。私は、四日市ぜんそくに対して、正直悪いイメージばかりもっていて、そのせいで、「四日市」そのものが良くないという考えまでもっていました。それでも、正しい知識とその物事を多様な面から見ようとする気持ちがあれば、そういった決めつけやおかしい情報にも惑わされず、強い自分をもって生活していけると思いました。

松茂中学校 1 年 a k

私は、先日初めて人権を語り合う中学生交流集会のリハーサルと本番に参加しました。本番の日は、午後から用事があって、午前だけになってしまったけど、前日のリハーサルの時に、知らない学校の人たちと意見を出し合い、みんなで人権のことについて考える雰囲気づくりができていて、ふだん学校で人権のことについて考えるよりももっと深く考えることができました。

この人権を語り合う中学生交流集会の参加を通して、シンジさんのように差別で苦しんだ人や今も苦しんでいる人がいることを改めて深く考えることができました。今回、シンジさんから学んだことを、自分の心にしっかりと根付かせ、差別解消へと行動できる人間になっていき

たいと強く思いました。

松茂中学校 1 年 a l

私は、人権を語り合う中学生交流集会に参加して、「本気で人権を語る」とは、どういうことかを知りました。まず、第1回から第4回の実行委員会で体験した参加者の全員で行った意見発表の時、私は手を挙げることができませんでした。グループで話し合うときは自分の意見を言えましたが、大勢の人の前で言うとなると、とても緊張したのを今でも覚えています。

しかし、そんな私と違い、意見発表では、たくさんの人が手を挙げました。私は、「あまり意見は出ないのかなあ」くらいに思っていたので、とても驚きました。そして、発表する人は誰もが自分の意見を素直に発表していて、このような場で堂々と語ることができる人は、本当にすごいと思います。自分の思いを語った人が、次に発表する人へとマイクを渡し、マイクが止まることなく、心をつなぐようにマイクを届け、誰もが本気で語り合っていると感じました。

私は、この人権を語り合う中学生交流集会に参加して、本気で人権を語り合う人たちを見ました。私たちの生きる社会には、深刻な人権問題があります。だからこそ、このように人権問題を知って、各校の皆さんと語り合うことが大切になってくると考えます。私もいつか本気で語り合えるようになって、しっかり自分の意見を持ち、人権に関わっていきたいです。

松茂中学校 1 年 a m

僕は、この中学生交流集会に参加してよかったなと思いました。なぜなら、みんなが本当のことを語っているのを聞いたからです。だから、これからは自分のことを語れるようにしたいです。

松茂中学校 1 年 a e

私は、人権を語り合う中学生交流集会の本大会に行きました。その日はいつもと違って松中

の人も来ていて、いつもいる人以外にもたくさん人がいました。私は、開会式の言葉を言うことになりました。その日の前の日のリハは行けなかったで、台詞を当日言われて、驚きと緊張がありました。本大会の日も、人権について1時間半ほど、マイクをみんなで渡して語り合いました。私は、まだ1年生で、この本大会に参加するのは初めてだったので、自分から手を挙げて語ることはできませんでした。その後に、森口先生から「手を挙げて、しっかり語ってくださいね」と言われ、手を挙げようかなと思いましたが、緊張して手を挙げて発表はできませんでした。でも、みんなの一人一人の意見も聞けて、すごいおもしろかったし、楽しかったです。

また、この前、一緒に話した子も、私に話しかけてくれて、うれしかったです。その子は、何度も手を挙げて発表していて、すごいと思います。自分のことをさらけ出して語っていた姿が、とてもかっこよかったです。私も、2年生になって、この集会に参加できたら、その子のように語ったり、他の中学校の生徒に声をかけたりして交流したいと思いました。そして、その子が言っていた、「普通と言うことをやめよう」というのを聞いて、なるほどと思いました。私は、今まで普通に生きてきたけど、その普通は、本当にありがたいものだということにも気づかされ、いろいろな人や親に「ありがとう」と言いたいと思いました。

この集会で学んだことはたくさんあり、人権について深まった会だったと思います。来年も人権のことをよく知って、先輩や語っていた同級生のように発表したいです。

松茂中学校1年 r

僕は、まずシンジさんの話を聞いて、部落問題について深く学ぶことができました。シンジさんが今まで体験したことや、そのようなことをなくしていこうとすることを学びました。体験を語っていたので、よくわかりやすく、知ら

なかった部落差別の現状が知れました。小さな力でも、僕は差別をなくしていきたいです。

次に、僕は作文を読みました。とても緊張しましたが、語っているうちに楽しくなり、ハキハキと語れました。上の学年の人の作文を聞いて泣いている人がいて、そこから思いが伝わってきました。特に八万中学校の1さんの発表が心に残りました。それは、病院で出会った2人との約束を守って、行動に移せたことがすごいと思いました。今日の人権を語り合う中学生交流集会は、自分の中学校生活の大切な思い出になりました。

松茂中学校1年 a n

人権の話聞いて、少しでもみんなの気持ちが変わったらいいなと思います。私のクラスでも書くのが面倒くさいという人はいます。だから、すぐに終わって楽だからと思わないでほしいなと思います。

松茂中学校1年 c

私は、この人権集会でたくさんのことを学びました。シンジさんが涙ながらにみんなの前で語っているのを見て、これまでとても苦しい思いをしてきたことが痛いほど伝わってきました。人に相談できないような悩みを持っていて、一人で悩んでいたと言っているのを聞き、私も人に言えない悩みを持っていたときもあったけど、それよりも辛かったんだな、ということを感じました。私は、そのような悩みや辛さを知らないのでへらへらしてられるけど、そのような悩みを持っている人は、私のように毎日が楽しくて笑っているわけじゃないと思うと、なんだか申し訳なくなりました。私はこんなふうに笑っていていいのかと思うほど、胸が苦しくなりました。でも、私は一人でも多くそのような人がいなくなることを願って待つことしかできません。でも、それだけだと、このようなことはなくならないと思います。でも私たちは、そのようなことしかできません。私は、そんな

自分が悔しいです。それでも私は、私にできる最善のことをしたいと思います。

松茂中学校 2 年 x

私はこの集会に参加して、自分の考えを伝えることの大切さを学びました。しかし、私はこの集会で1回しか発表できませんでした。言いたいことはたくさんあったけど、恥ずかしいと思ったので、できませんでした。だけど、今回この集会に参加して、みんなの経験や考えを聞いているうちに、自分の抱えていることを大切な友達に伝えることができました。自分と向き合うことができたのは、この人権集会に参加していたみんなのおかげだと思います。本当にありがとうございました。

松茂中学校 2 年 w

中学生集会で思ったことは、あの場では、いつもは言えないことを言うことができるということです。私は、最初それを聞いたとき、半信半疑でした。「いつも言えないことを初めて会った人に言えるはずがない。」そう思っている自分もいました。ところが、その考えが変わったのは、会が始まってすぐのことでした。一人、また一人と、自分のことや家族のこと、仲間とのかを語り出したのです。中には涙を流しながら語っている人もいました。また、私はこの会が与えている影響というものも感じました。

香川県から来たという人は、この会に影響され、香川県でも人権集会を開くとのことでした。また、三重県からは、この会のファンだという人も来ていて、自分の過去などについても語ってくれました。最初は、徳島県のいくつかの中学校の生徒だけで始まったのにもかかわらず、県外にまでその輪を広げているのです。人権集会とは、人の権利や人の生きる意味を改めて教えてくれる場所だと感じました。

松茂中学校 2 年 y

今回の交流集会は参加して良かったなと思い

ました。初めて参加したときは、緊張してグループの中でも上手く話せませんでしたが、今回はみんな意見をしっかり聞いてくれるので、とても発表しやすかったです。発表は苦手ですが、周りの雰囲気があったからこそ、私は発表することができました。とても印象に残る交流集会でした。

来年は受験などがあり、参加が難しいと思いますが、前回、今回参加したことはとても意味があると思うし、これから発表する機会はたくさんあると思います。そのような場面で自分の言いたいことを発表できるよう頑張っていきたいと思います。

松茂中学校 2 年 m

私は、交流集会に参加して学んだことは、人との交流を大切にすることです。理由は、みんなが悩みなどを発言して、それに返している人の言葉で悩みが少し軽くなったりして、自分もなにかと助けられた感じがしたからです。また、来年も参加できれば良いなと思いました。

松茂中学校 2 年 v

昨日、中学生集会がありました。今年は2年目で、実行委員長もしました。そして本大会は、午前から始めることができ、良い語り合いができました。何より、自分自身をさらけ出して語り合うことができました。特に印象的だったのは、人と人の間にある「線」の話です。自分とは違った意見で、想像力豊かだなと思いました。そして何より今年は、みんな自分からどんどん発言できていて、とても感動しました。これが人権学習の真の形だと思い、学校でもこんなふうに学習したいです。

最後に、来年も人権学習に参加したいと思っています。もっと人権について学びを深めて、本気の語り合いがしたいです。

高瀬中学校 2 年 q

徳島県の人権学習に参加して、同じような

考えを持つ人が多くいて驚きました。

僕は今回“線”について深く考えました。人は生きていくうえで必ず線は引いているのではないかと思います。だけど、必要ではない線を抱えている人も多くいると思います。誰かに勝手につくられてた線も少なくないと思います。「男だから、女だから」「体が小さいから、大きいから」人と違う部分があるのはいけない事ではなく、あたりまえのことだと思います。みんな違いを持っていい、それは個性だと思います。なのに、そんなちがいを理不尽な理由で線を引いている人がいます。誰かにつけられた理不尽な線で苦しんでいる人がいるのです。そんな必要のない線無くしてほしいし、自分も引かないように考えていきたいと思います。

今回、共感してくれる人がたくさんいて本当にうれしかったです。これから今回参加しなかった人たちに自分の意見を伝え、人権について本音で語り合える輪を広げていきたいです。そして、いつかは差別というものを無くしたいです。

高瀬中学校 2年 p

私はこの「人権を語り合う中学生交流集会 + 22」で、自分のことに置き換えて考えることができました。また、ものごとの別の見方や考え方があることに気づけたし、改めて、友達や家族の大切さについて学ぶことができました。

最初に、シンジさんやタダシさんからお話を聞いたときに、その考え方がすごいと感じました。食事をする際、家族と今日の出来事を話す中で、「自分も大切だけど、周りの人も大切。」「困っている人がいたら助けてあげて！！」と家族に伝えているシンジさんは、すごいと思いました。

また、水平社宣言で私の心に残った言葉は、「人の世に熱あれ 人間に光あれ」という言葉です。その言葉の意味を調べてみると、「社会で人々の力強い願いが叶う 人間が、その社会

でいきいきと生きていけるように」という意味でした。一つ一つの言葉の意味深さに感動しました。生まれた場所で差別する、部落差別を受けている人がいる、そんなことあってはならないことだと強く感じました。

シンジさんやタダシさんのお話を聞いて色々なことを思い出しました。私たち家族は、理由があって自治会に入っていません。そのとき、ある友達から言われたことで、「自治会に入っていないから行事には出ないで」と言われ、すごく悲しかったのを思い出しました。自治会に入っていないから参加できないというルールはありません。なぜ、そんなことで仲間はずれにするのか私には分かりませんでした。

私は過去にいじめられた経験があります。すごくつらい時期がありました。しかし、その経験がきっかけで、周りをよく見るようになったし、相手の気持ちをよく考えるようになりました。今、あの時を振り返ると、人権を深く考える経験ができたんだとプラスに考えられるようになりました。

しかしながら、差別、いじめ、人権侵害は絶対にあってはいけないことです。もし、つらい思いやしんどい思いをしたときに誰かに言える、信頼できる人がいるということは、とても大切なことだと感じました。私たちにできることは、まず、

つらい思い、悲しい思いをする人がいない環境をつくること。

人と関わるときに、自分のことに置き換えて考えてみること。

どんなに仲がいい友達でも礼儀を忘れないこと。

自分の発言に責任を持つこと。
だと思います。

この人権を語り合う会を通して、同じ悩みを共有できたり、一緒に人権について語り合えたり、自分の話を一生懸命聞いてくれたり…そんな空間って本当に居心地がいいと感じました。みんなが私の考えを、真剣に聴いてくれ、

とても発表しやすかったです。人の意見を否定せずまず聴く、言っていることに対して“うなづく”，その場の雰囲気をもみなでつくれたからこそ安心できたし，一緒に語り合え，学び合えたんだと思います。とても楽しく，もっといたいと思えるくらい素敵な時間を過ごすことができました。こんなにも人権について考えられるようになったのは，小学校6年のときに担任をしてくれた秋山先生や中学校1年のときに担任をしてくれた小野先生のお陰だと思っています。生きていく中で，一生考えていく人権について，これからもしっかりと考えていきたいと思っています。

私は，あの場にいられて，本当に幸せでした。ありがとうございました。

土庄中学校3年 n

まず私が驚いたのが，発表内容のハードルが高すぎたことと，いろんな人が何回も発表していたことです。私も少し発表しましたが，本当はもっと考えていたことがあったけれど勇気が出なかったし，タイミングが分からなかったのでできませんでした。次の学校行事で同じような機会があったら発表したいです。

一番心に残ったのが，八万中学校のaさんの作文です。彼女は泣きながら語っていて，その姿から親友への想いがとても伝わってきました。私も「何でこんなこと言っちゃったんだろう」と後悔した経験がたくさんあり，とても共感したし感動しました。

私は今回中学生交流集会に参加してよかったと思っています。私は今まであの生徒たちほど人権について考えていなかったのでも，自分を見つめるよい機会になりました。また，「この会にいらることが幸せ」と言っていた人が多くて驚いたし，それくらい真剣に語り合おうとしている熱意を感じることができました。私もみんなのように，人権についてもっと真剣に考えたいと思いました。

土庄中学校3年 o

土庄町人権フェスタの「こころのつどい」とはレベルが違ふと思った。誰か一人が意見を言えば，他の人が次々発表していて，無言の時間が少なかったのですごいと思った。発表内容も自分が考えていた以上に深い内容だったし，自分の思いもつかないところまで考えていたので自分はまだまだなんだと実感した。

みんなに対して吉成先生が「あなたにとって幸せなときは何ですか」と聞かれたとき，難しい質問だと思った。他の学校の人たちは「自分たちのために人権について語り合うこと」と言っている人が多かったのでも，それだけ人権に対する思いが強いんだなと思った。人権について学ぶ必要性を改めて知ることができた。もっと人権について考えて自分の意見をしっかりともてるようになりたいと思った。そして，自分の意見を発表できるように頑張りたい。

土庄中学校1年 a o

交流集会では，みんなが活発に意見を発表をしていてすごいと思った。自分は発表できなかったけれど，来年も参加して発表したいと思った。

全体場で「差別がある＝線が引かれている」の話になったとき，徳島の中学3年生の1くんが，「差別をなくそうとしたとき，それをさせようとしなない人たちがいる。体育館に引かれたテープの線をはがそうとするんだけど，その上に人が乗っていてはがすことができない状態」という例えがとても分かりやすかった。みんなの人権に対する熱がすごかった。土庄町人権フェスタでの「こころのつどい」よりもみんなが真剣だったし，参加している一人一人が自分の思いを勇気を出して話していたので，自分もまねしたいと思った。

土庄中学校1年 a p

私はこの会に参加していろいろ学ぶことができました。特に心に残ったのは，同じ人が何回

も発表していてすごいなと思ったことです。私も発表したかったけど緊張してできなかったです。先輩が自分の意見を発表していたので、来年は先輩みたいに発表したいです。

徳島の中学校の人が「自分は吃音だけど」と打ち明けていました。そのことを分かってくれる小さいときからの友人が実際に隣にいて、支え支えられる関係があるから自信をもって話をしているように感じました。

吉成先生の「あなたにとって幸せなときは？」という質問がありました。私にとっての幸せは犬といる時間、家族といない時間です。理由は、家族といるとストレスがたまるからです。そして、犬といるとストレス解消になるからです。

八万中学校のaさんが泣きながら作文を読んでいたのには心を動かされました。土庄町人権フェスタとは違って、作文の内容にみんな一人一人の意見をつなげようとしていました。来年も参加して、私も発表したいと思いました。しっかり人権について考えたり、もっと友達関係について考えたりしていきたいと思いました。

鳴潮

昨年春、取材で会った当時40歳のしんじさんは悩んでいた。自分が徳島県内の被差別部落に生まれ育ったことを小学生の娘に言うべきか、言わざるべきか▼しんじさんと長い付き合いの中学教諭から先日、便りが届いた。

「夏休み中の中学生人権集会でパネラーを務めた彼は、覚悟を決めて小4の娘を連れてきました」▼しんじさんは大人になって職場で受けた差別や、本音で語り合える友の大切さに加え、娘を連れてきた思いを語った▼集会の夜、しんじさんは教諭にメールを送った。

「彼女は楽しかったと言ってくれました。テンション上がりまくりで、ママに今日の出来事を一生懸命伝えていました。部落差別という言葉も出てきました。なんとも言えない瞬間でした。私の生い立ち、この子の生き方が縦に並んだ瞬間です」▼差別のない社会を求め、被差別部落出身の人々が全国水平社を創立して今年で100年。部落差別を主題とする島崎藤村の小説「破戒」が60年ぶりに映画化され、7月に公開された▼「部落差別がなくなっても、また新たな差別が生まれる」とのせりふがある。現代社会は部落差別の根絶も成し得ていない上、ネットでの中傷、セクハラ、マイノリティーへの差別……。せりふ通りか、それ以上か。しんじさんの娘さんの未来にまで、そんな社会を持ち越したくない。

2022.6.19

